

事業所名 リハビリテーション颯 みずの

運営推進会議等開催報告書

開催日時 令和6年3月21日(木) 10:00~10:45	
参加者	議題
利用者 1名 利用者家族 1名 地域住民の代表者 1名 市職員 1名 地域包括支援センター職員 1名 事業所 2名	1. 運営状況 当月利用状況(2024年2月末) 2. リハビリテーション颯みずのの取組み 3. ご意見・質問照会
会議録	
<p>1. 運営状況</p> <p>2024年2月末時点での登録者数95名(男性33名、女性62名)、延べ利用者数は468名の方がご利用してくださりました。19日間(19日間×午前午後の2回)の営業で一回当たりの平均利用人数は、12.3名で推移しました。</p> <p>2. リハビリテーション颯みずのの取組み</p> <p>颯みずのでは基本プログラム、個別プログラム、集団プログラムの大きく3つに分かれてリハビリを3時間10分行っています。今回はこの内の1つ個別プログラムについてご紹介をさせていただきました。</p> <p>パーキンソン病に対する運動プログラムを実際に見学させていただきました。パーキンソン病の病態は、運動系では、振戦・固縮・無動・姿勢反射障害、非運動系では、自律神経障害(血圧変動等)・睡眠障害・精神症状・仮面様顔貌(表情の乏しさ)があります。リハビリテーション颯みずのでは、主に固縮・姿勢反射障害に焦点をあてた運動プログラム、自律神経障害に対しては、ウォーターベッド等によるリラクゼーション系メニューでアプローチし、血圧の数値を運動可能な範囲まで調整に努めています。関節の柔軟性が失われ動く範囲が狭くなっていく固縮に対しては、ニューステップ等で膝や股関節、腕を連続して動かしていただいています。タイミングよく片側に加重する事や外力に対して瞬時に姿勢を整える事が難しくなる姿勢反射障害では、平行棒内で前後左右のステップ運動や片脚立位バランス等に取り組んでいます。</p> <p>今回は、前回紹介した基本プログラムとは別に個別で行っている運動プログラムの一つである「パーキンソン病運動プログラム」を見学させていただきました。この他にも、腰痛体操や膝関節の運動プログラム等があります。このようなプログラムの取組みは、その方の状態を評価し、そのレベルに合わせて運動を提供していきます。今後も症状を少しでも遅らせ、ご利用者様が自宅で安心して安全に暮らせるよう支援していきます。</p>	

3. ご意見・質問照会

質問 1. 午前・午後でプログラムは一緒ですか。

〈回答〉

午前・午後も同じプログラムで行っています。疾患別運動プログラムに参加される方は、全てその対象疾患のご利用者様ではありません。今回紹介させていただいた「パーキンソン病運動プログラム」には、立位でのバランス保持が苦手な方々も参加されています。このように疾患だけでなく、その方の状態や症状に合わせて、各プログラムに参加する場合があります。

質問 2. 送迎はありますか。

〈回答〉

瀬戸市全域と尾張旭市の一部も送迎範囲となっています。

質問 3. どんな病気が多いですか。

〈回答〉

脳血管障害による顕著な片麻痺の方は2人と少なく、中枢神経疾患であるパーキンソン病の方が疑いも含め15人、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症といった難病の方も利用されています。また、通われている大半の方に、肩、腰、膝に痛みを抱えていらっしゃいます。

質問 4. 認知症のある方の運動は何をされていますか。

〈回答〉

しりとりゲームをしながら階段昇降など二つの事を同時に行い、認知機能における情報処理能力にアプローチする運動を実施しています。

質問 5. 運動を継続し体の状態が改善した方についてはどのような形で伝えていきますか。

〈回答〉

身体機能評価を毎月行い、その結果を個別の関わりの時にお伝えしています。

【次回：令和6年9月頃開催予定】